

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム陽だまりの森
(ユニット名)	野ん美里館
所在地 (県・市町村名)	島根県大田市
記入者名 (管理者)	竹下貴之
記入日	平成20年11月13日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年と変わらず「あなたらしく自分らしく」をキャッチフレーズとしている	引き続き利用者の意欲、人間性を引き出せるような声かけ、また、関わりを続けていきたい
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は共有できている	理念の具現化に努めたい
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	カンファレンス、運営推進会議などを通じてホームでの活動やスタッフのケアについて報告し理解と協力を得られるように実施している。広報への理念掲載は続けており久利町全戸に配布している	全家族との理解とケアの方向性での共有は出来ていない面もあり引き続き活動を続けたい
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	利用者に近隣の知人が多く職員のことも覚えてもらっている	行事への参加を呼びかけるなどこちら側からアクションを起こしていきたい
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運動会、敬老会、文化祭などに毎年参加させていただいている	参加だけでなく地域貢献として清掃活動などにも意欲的にも取り組みたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	未実施		老人会にも積極的にコンタクトをとっていきたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価、運営推進会議等の意見をふまえて取り組んでいる		それらの評価を総合的に分析し利用者の生活の質向上に向けて取り組んでいきたい
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の割合で開催している。回数を重ねるごとに家族のつながりも形成できてきている。様々な意見をいただくことでケアに反映できている。今年度から利用者家族全員を運営委員とした。その結果、より多くの意見をいただけるようになった		継続していくが家族も同じメンバーになりがちでその他の家族にも参加していただけるよう考えていきたい
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月1回のペースで介護相談員が来所し利用者、スタッフから意見を聞いている		ホームでの改善点や行政への提案など情報のやり取りとまではいたっていない為、もっと密な連携が図れるよう考えていきたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方もおられる		制度についての知識をスタッフ全員で把握できるようにミーティングなどを通じて説明していきたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現在、スタッフ1名が虐待防止、身体拘束研修に参加し施設内研修を行っている		その言葉の持つ広義と狭義を把握でき、なおかつ、共有の理解と実施できるように考えていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人に納得していただいた上で契約を、結んでいる	今後も継続していく
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に出席し積極的に意見を発する利用者もいる	家族等に一度注意及び不満を訴えられた際には二度と繰り返さないように気を引き締めていきたい
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月末に家族へ状況報告を行っておりそれ以外にも定期的に報告と相談の連絡をしている。半年に1回は家族へ手紙、写真を同封するなどし状況を伝えている	受診結果など業務的な連絡だけでなく随時行事や日常での穏やかな出来事も報告していきたい
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	何でも言いやすい関係を構築してきた。意見を下さる家族が増えてきている	極力職員の異動などがないように配慮が必要である。身だしなみについても配慮していかなければならない。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年に一回個々に面接を行い、目標設定に合わせ希望などの聞きとりをしている	引き続き行っていく
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	出来る限りの配慮は考えているが、スタッフ数の関係上、柔軟とはいえない状況にある。	スタッフの確保が急務である
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	配慮はするがやむを得ない場合もある	可能な限り行っていく

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	随時研修は参加させている。マナーアップ研修など、施設内研修も開催している	介護に関する研修だけでなく様々な分野の研修や勉強会にも参加してみることでスタッフの質の向上に努めてたい
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会で3ヶ月に1回勉強会を開催している	今後も継続していきたい
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	メールを活用し意見交換している。個人面談や時間外で意見を聞きストレスの原因を把握する努力をしている	引き続き行っていく
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	入居者の自立も必要なことではあるがスタッフ間のコミュニケーションがなにより大切であることを伝えている。現状の課題などがあればホーム長、主任を通じ、また、三者面談により状況把握、改善に努めている	引き続き行っていく
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	特に慎重に1対1で話を伺う機会を設け意思を確認している	最初でないと聞き取れない、また聞き取りにくい情報もある為、その大切さを意識し今後も取り組んでいきたい
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期は特に家族の面会を呼びかけている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	緊急性があれば即座に対応している		引き続き行っていく
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族や本人の状況によりサービス開始している。即日入居ではなく半日の試験利用を重ね利用に結び付けている。		入居決定後、即入居ではなく現状の体制を引き続き継続していきたい
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「～してあげる」という意識は排除し一緒に生活しているという思いで接している		スタッフの言葉遣いに馴れ合いによって礼儀を忘れないようにしていきたい
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人にとって良いことがあった際にも連絡し共に喜ぶこともある		ケアプランにつきも家族の意見をもっと取り入れたい
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と一緒に手紙を書く。定期的に来所、宿泊されるご家族もいる		引き続き行っていく
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	誕生日には友達に来てもらい一緒に祝うこともある		利用者にも友達宅へ行ってもらいたい
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共同作業の機会を増やし仲間意識が高まった。利用者同士で助け合う姿も多くなっている		可能な限り行っていく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用終了した入居者の家族から野菜が届くなど関係が継続しているケースもある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフ中心のケアプランであったが本人のニーズを最優先にケアプランに取り入れことを強化している。本人、家族、スタッフのニーズを合わせ総合的なケアプランのもとに実施している		介助に頼らず自立した生活を過ごせるようにADLの向上も考えていきたい。それに伴い環境変化に合わせてニーズも変更していきたい
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を用いることで本人の今まで知らなかった部分もスタッフ全員が認知できるようになっている。家族やその方の友人などからも聞くことでアセスメントだけでなく人間関係作りにも期待できる		アセスメントとしては不十分な点も多い為、早急にアセスメントの完成に向け実行していく。気になった点は記録しておき、家族が来所された際に聞くように今後も心がけていく
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	アセスメント方法を変えたことにより生活リズムの形成ができ、生活リハの行動範囲も広がっている。本人にとっても安定した環境作りも形成されつつある		1日1日で変化のある方に対し、冷静に対応ができるように全職員でミーティングを重ねていきたい
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式のアセスメント様式を用いてスタッフと家族、担当医とカンファレンスを行い、サービス担当者が一任して作成している。スタッフ、家族にも分かりやすいように本人の言葉で記している		家族によってはニーズを聞き出せていない例もあるため、関係作りの強化に努め総合的なケアプラン作成ができるようにしたい
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化があれば即座にカンファレンスを行いケアプランの変更をしている。困難な事例については家族、運営者も交えカンファレンスを実施している		家族への理解を求める為にカンファレンスまでに随時、家族へ連絡し更なる強化に努めたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録様式の見直しは定期的に行っており、気付きを大切にされた記録が残せるよう努力している		より正確な事実とその背景となるものを記録しプランに活かしたい
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の妻など移動手段のない方への送迎を行い、宿泊していただく、本人と家族との外出支援など都合や要望に応じている		可能な限り行っていく
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	小学校、保育園児、老人会との合同運動会やお菓子作り、地域清掃、芋の苗植えなど積極的に行っている		地域に支えられているという意識を持ち続けたい
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在そのようなケースはない		現状、そのようなケースはないが、必要に応じ対応していく
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとはないが、成年後見制度を利用しておられる方について社会福祉協議会と協働している		現状そのようなケースはないが、必要に応じ対応していく
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	何度も話し合い主治医を決めてもらっている。往診に来てくださる医師とは気軽に相談できる関係である		引き続き良い関係を維持したい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		ニーズに合わせ対応していきたい
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		可能な限り行っていく
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		可能な限り行っていく
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		今後、起こりうることであるため、家族、本人と話し合う機会を設けたい
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		重度、終末期ケアの知識を深め、チームとしてケアできるようにしたい
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		可能な限り行っていく

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	各居室に入室時は必ずノックし言葉がけして入室している。 入浴介助は可能な限り同姓が介助している	さりげない介助を心がけ人生の大先輩という意識を持ち接していきたい
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	アセスメントしながら希望を把握し支援している	都度、本人に説明、意思確認し納得していただいた上で行動していただけるよう「待つ」ということを大切にしたい
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員同士のコミュニケーションを優先している現状で職員ペースになりがちなどは否めない	職員側の指示を待っておられる状態なのでもっと希望を言ってもらえるように言葉がけしていきたい
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご本人希望の理美容院に行っている。	服をご自分で選ばれることがあまりない為、何種類か用意させていただき選んでもらう工夫をしたい
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材切り、味付け、食器拭き等全般的にしている	何が食べたいか一緒に献立を考えることをしたい。自分が作った物を若い者(職員)に食べさせてやりたいというニーズにも応えていきたい
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物はメニューの中から選んでいただいている	ご自分で用意できる空間作りをしたい(飲み物に関して)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄ペースを把握できた方から布パンツへ変更している。なるべく介助せず落ち着いた環境で出来るように支援、配慮している		失敗を減らすために、排泄メカニズムと一人ずつのペースを再アセスメント
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	3日に1回のペースで入浴していただいている。		時間帯など職員ペースになっていることから一人ずつに適した時間帯を把握していきたい
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	午睡も一人ずつ落ち着ける場所で休んでもらっている		睡眠をとりすぎないように配慮が必要である
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々のニーズに合わせた役割や余暇活動を提供している。喫茶前のレクや体操、料理、畑仕事なども行っている。		もっと一人ひとりの可能性を引き出し活動範囲を増やしていきたい
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が望まれた場合、必要最小限の方もおられれば全額自己管理される方もおられる		使用する機会が少ないので使う機会を増やしていきたい
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺の散歩、週1回の外出、個人の買い物など積極的にやっている		買い物に関しては決まった方になりがちなので平等に対応できるようにしていきたい
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	誕生日など特別な日は遠くへ外出することもある。半年に一回は野ん美里館の利用者全員で外出を計画している		外出頻度を増やせるように家族の支援を求め協力を強化したい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に沿って電話を掛けていただいている。手紙を書くこともある		引き続き継続していく
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ゆっくり過ごして下さる訪問者もいて居心地は悪くはないと思う。他の入居者とも気兼ねなく話していただいている		訪問者から意見をいただきより良い環境作りを形成したい
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束のないよう心がけている		全員が正しく理解し実践しているとは言えないのでカンファレンスの機会を通じて啓発していきたい
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることのデメリットをみんなで話し合った。その結果、季節に合わせ施錠時間を流動的にすることになった。		必要性のない施錠を出来る限り解除していきたい
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	おおむね出来ている。当日の勤務者の連携で未然に防ぐ努力をしている		事故を繰り返さないように注意していく
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険だからと入居者から遠ざけることがあり、工夫が必要		居室やホールに戻す努力をしていきたい
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告、ひやりはつとをリスク委員が分析し再発防止に努めている		引き続き行っていく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急法など年2回行い、知識の習得、向上に努めている		引き続き行っていく
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月、夜間想定避難訓練を実施し反省点、改善点を挙げている。		地域の方々の合同で訓練などが行えるよう現在、調整中である
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクがあっても出来る限り本人の希望と自由を優先した生活を送っていただきたく家族へ説明している。それに対し家族の協力も得られている		引き続き行っていく
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	速やかに医師へ報告、相談している。対応方法も共有できるように休日の職員も連絡する場合もある		引き続き行っていく
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解している。変更時は用途や副作用等もスタッフに回覧し周知に努めている		引き続き行っていく
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事、運動は取り組んでいるところではあるが便秘傾向にある		排泄のメカニズムについて更なる知識習得と改善に努めたい
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを行っている		引き続き行っていく

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おおむね出来ている。	引き続き行っていく
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルに基づいて行動している	引き続き行っていく
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手洗い、うがいの徹底、消毒は行っている。一部の生産国の食材は使用しないようにしている。常に鮮度の良い物を使用している	引き続き行っていく
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	プランター等に花などを植えるなど努力はしているが親しみやすいかどうかは分からない	外部からの意見を取り入れ家庭的な雰囲気近づけるように努力したい
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中はなるべく自然の光の中で生活していただいている	テレビ、足音、電話の着信音、大声など混乱を招く音に関しては配慮できるようになりたい
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間はどこにいても人の目が気になるような状況であり居場所のない利用者もいるのが現状である	狭い空間ではあるがレイアウトなどの変更の必要性はある

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	私物を出来る限り持参してもらいその人らしい部屋になるよう心がけている		カーペットなどの導入も検討している
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	室温計を設置し常時適した環境を提供できるよう配慮している。しかし、冬季は隙間風があるため、足元が寒い日がある		出来る限り適温を維持できるよう配慮していきたい
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー設備により現在のところ問題はなく生活できている		家庭的な雰囲気を持つため「施設色」をださないように配慮していきたい
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	必要以上の表示は控えている		利用者の目線に合わせた表示やレイアウトが必要である
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関周りの花の水やりを役割としている利用者や畑仕事を楽しむ利用者もいる。中庭には吊るし柿をしたり季節の野菜を干したりしている。また、犬を連れてくるなど工夫している		危険も多い環境もある為。改善が必要な場所もある

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

尊敬の気持ちを忘れず一方的でなく、相互関係を築いている。居室は個性的になりそれぞれ自由に過ごしてもらえている。地域交流を目的とした行事を多く行っている。小学生との交流も多い。現在、小学校ではボランティアカードを渡しボランティア活動してもらえるよう投げかけている。